

行名	千葉銀行
タイトル	千葉県内の飲食チェーンへ MBO による事業譲渡支援を実施
取組み内容	1．取組経緯 ・ 当行取引先である A 社は千葉県を中心に展開する飲食チェーン店。 ・ 後継者不在であったため、社外から招いたプロ経営者 M 氏への事業承継が課題であった。 2．企業の課題解決に向けた具体的な取組み内容 ・ 飲食店を運営する A 社と食品加工事業を営む A 社関連の B 社を会社分割し、新設会社（C 社）に吸収分割するスキームを当行主導で構築。新設会社には当行グループのちばぎんキャピタルが運営するファンド及び日本政策投資銀行が出資する官民ファンド等が出資。 ・ 併せて、今後の事業展開を見据えた資金ニーズに対し、当行がアレンジャーとなりシンジケートローンを組成し、成長資金を供給した。 ・ また当行は店舗の新規出店や、同店舗で提供する新メニュー（アイスクリーム）考案にも関与し、A 社の様々な経営課題に対して本業支援を実践した。 3．当行の取組みによる成果（地域への波及効果） ・ 本件は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にもある地域ファンドが官民ファンドと連携して地域企業の「攻めの経営」に必要な成長資金を供給するスキームを構築した案件。 ・ 事業譲渡に際して、県外への本社移転を未然に防ぎ、地元雇用が維持された。 ・ 地域企業の事業承継モデルの 1 つとなるほか、A 社の企業価値向上、成長支援に留まらず、地元企業のビジネスマッチングによる商取引拡大により、地域経済の活性化に寄与した取組みとなった。 ○スキーム図

銀行名	千葉銀行
タイトル	耕作放棄地等を集約し、大規模営農を行う計画の実現をサポート
取組み内容	1．取組経緯 ・ 当行取引先の関連会社D社（農業生産法人）が休耕地や耕作放棄地等を集約して、大規模農業を展開したいという意向を当行は把握した。 ・ 当行では、取引先グループの事業拡大に加え、「休耕地・耕作放棄地解消および地方創生」のモデルになりうると評価し、本件推進していくべきと判断した。 2．企業の課題解決に向けた具体的な取組み内容 ・ 本件事業計画の実行支援に向け、農業委員会や市農政課と精力的に交渉を行うとともに農業近代化資金等の公的資金の活用を検討した。 ・ 経営陣と面談を重ね、事業推進上の問題点の洗い出し、その解決スキームの構築などに積極的に関与し、当社CFに合わせた返済計画が可能となる「ちばぎん地方創生融資制度」の活用を提案した。また親会社が生産する堆肥を利用し、生産コストを圧縮するというビジネスモデル構築にも携わり、事業計画の実効性向上に向けた支援を行った。 ・ なお、当行からの紹介により、当社が生産する落花生を地元有力企業が仕入れることが決定するなど、本業支援により、販路拡充に寄与する取組みを行った。 ・ 事業開始後は「事業計画」に基づきモニタリングを実施し、計画と大きな乖離のある場合は計画見直しなどのハンズオン支援を行っていく。 3．当行の取組みによる成果（地域への波及効果） ・ 事業計画に基づき3年間の元金据置き期間を設けた「ちばぎん地方創生融資制度」による融資を実行した。 ・ 農業の競争力強化を急ぐ政府方針に沿って大規模農業を行う事業計画であり、地域産業の活性化に寄与するだけでなく、年齢や体力に不安がある高齢農家でも農作業に従事することが可能であることから、地域の雇用創出にも貢献できる。 ・ 本計画立案後、これまで農地売却を躊躇していた農家が売却方針へ転換。更なる農地の大規模化が見込まれる。 ちばぎん地方創生融資制度 ・ 地方創生に資する事業を金融面で支援することを目的として、創業または新規事業を行なう事業者を対象者に、当行が事業性を評価し、事業の成長性等を認めた案件について、事業計画に合わせた柔軟な返済条件等の設定を可能とする融資制度（最長3年間の元金据置き期間の設定が可能）。 ・ 事業計画の策定にあたっては、必要に応じて当行が助言を行うほか、融資実行後も事業計画の進捗状況を定期的に確認し、計画と実績が大きく乖離した場合においては、その要因分析や事業計画見直し等のハンズオン支援を行う。

銀行名	千葉銀行
タイトル	ファンドの活用により、公共施設を利活用する新規事業を支援
取組み内容	1．取組経緯 ・ 当行取引先 E 社は平成 18 年に設立し、スポーツ合宿所、キャンプ場、外国人向け宿泊所等の運営を行っている。 ・ 今般、当社が公共施設をリノベーションする新規事業を計画し、安定した資金調達手段を模索していたため、当行が資金対応を検討したもの。 2．企業の課題解決に向けた具体的な取組み内容 ・ 当行は本件に対して事業性評価の結果、将来の成長性が見込めると判断し、「広域ちば地域活性化ファンド」の活用を提案した。 ・ 当社が得意としている、取り壊し予定の公的不動産や未利用資源の利活用により、地域活性化へのロールモデルを構築するとともに、地域雇用の拡大や宿泊客増加による地方創生の実現につながった。 3．当行の取組みによる成果（地域への波及効果） ・ 市場規模等を勘案した既存事業の成長性と新規事業計画の実現可能性が高く、また地域の特性を生かしながら活性化を図る事業を支援するファンドの設立目的にも合致したことからファンドによる投資が決定。 ・ 融資とファンドによる投資両面での資金調達をサポートするとともに REVIC を活用したハンズオン支援も実施。 ・ 公共施設の利活用により、人口減少地域での新規宿泊所の開設につながったことで、地域雇用拡大と観光客増加が大いに期待できる。 広域ちば地域活性化ファンド ・ 千葉県が有する産業基盤や観光資源、人材といった地域の特性と従来の常識や慣習にとらわれない斬新な発想とを融合した新しい事業モデルを育てていくことを目的として設立。出資総額：5 億円（うち当行 4.9 億円）。共同 G P：ちばぎんキャピタル・REVIC キャピタル。

銀行名	千葉銀行
タイトル	漁業協同組合の抜本的再生をつうじ地域の再生と経済活性化に貢献
取組み内容	1．経緯 ・ F は老舗の漁業協同組合。組合向けの食堂を一般に開放した直営の漁師料理店がメディア等に取り上げられ知名度が向上、年間 30 万人の来訪者を集める町の主要な観光施設となっている。 ・ しかし、他に新規参入した複数の事業は順調に進捗しておらず多額の損失を計上、債務も増大した。また、好調であった食堂事業も、東日本大震災以降は売上減少と競合激化により業績が悪化し、資金繰りが逼迫する事態となった。 ・ F では、経営悪化に起因して執行部が交替し、新執行部から取引金融機関に対して強硬な債権放棄要請がなされたこと等から、協調して事業再生に取り組む状況にはなかった。 2．支援内容 ・ 平成 26 年、当行が主導して取引金融機関の協調体制を構築し F との真摯な話し合いを継続。その結果、要請は取り下げられ、本格的な経営改善支援に着手する環境が整った。 ・ 当行は取引金融機関を取りまとめ、千葉県産業復興相談センターと連携するとともに、千葉県が運営する経営改善計画推進委員会とも協力して事業再生計画の策定を支援。平成 28 年 3 月に事業再生計画が成立した。 ・ 当該計画には、D D S 取組みをつうじた財務体質の改善、不採算事業からの撤退や縮小、核となる食堂事業の運営方法見直し、店舗改装による売上回復、オペレーションの効率化等を盛り込んだ。 3．成果 ・ 本件は、メイン銀行が金融団、公的支援機関、行政と連携しながら、漁業協同組合の抜本的な再生を支援した全国初の事例。 ・ F の事業は、関係する住民が地域人口の 1 割、食堂事業の売上が地域飲食店売上の 3 割と、当該地域の経済において大きなウェイトを占めることから、本件取組は、当行貸出資産の健全化のみならず、地域における雇用と主要な観光資源の維持をつうじて、地域の再生と経済活性化に大きく寄与することとなった。

銀行名	千葉銀行		
タイトル	「ひと」の未来を育む活動		
取組み内容	名称	取組み時期	内容
	ちばぎんハートフル福祉基金	平成 21 年～継続中	千葉県内で社会福祉活動を行う団体等に対して、資金面での支援を行っています。これまで計 76 先に総額約 41 百万円の助成を実施しました。
	ちばぎんひまわりコンサート	平成元年～継続中	地域のお客さまと音楽をつうじてふれあうことを目的として、さまざまなジャンルのコンサートをお届けしています。店頭やＨＰで観客を募集し、取引の有無にかかわらず無料でご招待しています。
	ちばぎんひまわり寄席	平成 25 年～継続中	笑いで地域を元気にしたい、という思いを込めて、著名な落語家などによる寄席を開催しています。店頭やＨＰで観客を募集し、取引の有無にかかわらず無料でご招待しています。
	ちばぎんカップ	平成 7 年～継続中 (平成 26 年開催なし)	地域スポーツ振興の観点から、千葉県内に拠点を置くプロサッカーチームのプレシーズンマッチに特別協賛しています。あわせて、開催地の自治体をつうじて、障がい者の方々を無料でご招待しています。
	ちばぎんひまわりギャラリー	平成 26 年～継続中	有名作家による「企画展」、千葉にゆかりのある作家による「公募展」を開催し、無料で解放しています。オープンからこれまでに 3 万 5 千人以上のお客さまにご来場いただきました。
	ちばぎんフィルムライブラリー	昭和 38 年～継続中	幼稚園や子供会、福祉施設など地域の団体に、幅広いジャンルのフィルムや映写機材を当行の本・支店窓口を通じて無料でお貸し出ししています。
	幼稚園へのオーケストラ派遣	平成 25 年～継続中	子どもたちに「本物」の文化に触れてもらうため、「公益財団法人ちばぎんみらい財団」をつうじて、県内の幼稚園にミニオーケストラを派遣しています。
	エコノミクス甲子園	平成 21 年～継続中	県内高校生への金融知力普及を目的として、金融や経済に関するクイズ大会を千葉興業銀行と共同で開催しています。

	名称	取組み時期	内容
	寄付講座	平成 19 年～ 継続中	地元の千葉大学にて、野村證券と共同で寄付講座を実施しています。 職員が教壇に立ち、銀行の役割や地元経済の動向などに関する講義を行います。
	職場体験	(開始時期 不明) 継続中	地域の小中高生を対象に、本支店で、銀行業務の解説をはじめ、店内・ＡＴＭコーナーの見学やビジネスマナー体験等を実施しています。
	ちばぎん金融資料室	平成 25 年～ 継続中	当行と前身銀行を中心とした金融史や、発展を遂げてきた千葉県の姿を展示・紹介するとともに、お子さま連れにも楽しんでいただけるよう、お金について楽しく学べるサイネージなどを設置しています。

銀行名	千葉銀行		
タイトル	「環境」の未来を育む活動		
取組み内容	名称	取組み時期	内容
	ちばぎんの森	平成 15 年～継続中	温暖化対策や防災対策の観点から、県内 2 ヲ所（長生郡白子町、山武郡蓮沼町）で、育樹活動を行っています。また、ボランティアによる下草刈りを定期的 to 実施しています。
	省エネ・エコセミナー	平成 24 年～継続中	中小企業の経営者や担当者に対して「省エネ」を切り口とした情報提供を行い、お客さまの経営体質改善と環境問題への主体的な取り組みを支援することを目的として開催しています。来場者に対して省エネ診断業者等との個別相談の場も提供しています。
	エコカーの導入	平成 23 年～継続中	ハイブリッドカーや電気自動車など、排出ガスの少ない車を営業車として多く活用しています。また、水素を燃料とする新型燃料電池自動車「MIRAI」を県内でいち早く導入しました。
	21 世紀金融行動原則への署名	平成 23 年	「地球の未来を憂い、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたい」という本原則の趣旨に賛同し、平成 23 年より、署名・参加しています。
	節電活動	平成 18 年～継続中	クールビズ・ウォームビズの実施、空調の設定温度の見直しや事務機器の使用を抑えるなどの活動に取り組んでいます。 平成 22 年よりライトダウンキャンペーンに参加、平成 26 年より「Fun to Share」に署名しています。
	クリーンウォーク	平成 15 年～継続中	当行役職員・OB で構成するボランティア組織「V ネットクラブ」を中心として、地域の環境美化・保全を目的に、県内各地で定期的に清掃活動に取り組んでいます。

銀行名	千葉銀行		
タイトル	「産業」の未来を育む活動		
取組み内容	名称	取組み時期	内容
	ひまわりベンチャー育成基金	平成 10 年～継続中	千葉県経済の健全な発展と活性化のため、千葉県内のベンチャー企業に対する支援、県内の経済産業に関する調査研究や情報の提供を行っています。
	ちばぎん・研究開発助成制度	平成 24 年～継続中	地元の千葉大学、千葉工業大学と共同で研究開発を行う中小企業を対象に、その費用の一部を助成しています。
	ちばぎん・学生版ビジネスアイデアコンテスト	平成 24 年～継続中	学生の起業家志向を育てるため、地域活性化につながるビジネスモデルを募集しています。そのうち、特に優れた事業には表彰を行っており、表彰された学生には起業に向けたサポートなども行っています
	ちばぎんマルシェ	平成 23 年～継続中	地元自治体と協力し、農産品販売の「場」を提供することで、県内の農業生産者、食品加工業者を応援しています。
	中小企業従業員の海外視察派遣事業	平成 25 年～継続中	国際的な感覚を養っていただくため、「公益財団法人ちばぎんみらい財団」をつうじて、中小企業従業員の方々の海外視察を支援しています。